

スランプからの復活

第一生命経済研究所 専務取締役経済調査部長 佐久間 啓



今や日本の2大メジャースポーツと言ってもいいプロ野球、サッカーJリーグのレギュラーシーズンが始まっている。シーズン前には昨年の実績やオフの戦力補強状況、プレシーズンマッチの内容等から今年の優勝候補はどこどこだというような予想が頻繁に出される。だが、いざシーズンが始まってみると、事前の予想通り順当な結果を出しているチームもあれば、予想に反してなかなか波に乗れないチームもある。毎年のこととはいえなかなか事前の想定通りに事は進まないものだ。

不調の要因は様々でありまたその対応も様々である。多くは微妙な歯車のずれから生じていると思われるが、これまで控えだった選手が先発起用で活躍したり、元気な若手が出てきて穴を埋めたりして復調していくチームがあれば、シーズンを通してそうした明るい兆しも見られず終わってしまうチームもある。そもそもこうした想定外の不調(そもそも想定内の不調などということは戦うプロフェッショナルとして在りえないが)にどう対応し克服していくかがプロフェッショナルの実力ということなのかもしれない。復調できるということはそうした歯車のずれを正しく認識し修正するノウハウを身につけているということだろう。

また、チームの主力選手が突然調子を落としてしまいチームとして機能しないということもたびたび起きる。そんな時、多くの選手が自分なりのやり方で不調から脱け出しファンを安心させてくれる一方、不調が長引きなかなか元気な姿が見られないという場合もある。

ところでこのトッププロ選手の突然の不調(スランプ)はスポーツに限らずどのプロフェッショナルの世界でもよく聞く話である。スランプの原因は人それぞれだろうが、よく聞くのは更なる成長を目指して新しいことに挑戦し

ている一つまりフォームを変えた、用具を変えた一時に陥りがちだということだ。体全体のバランス、動きが微妙にずれていたりということで急にこれまでのパフォーマンスが発揮できなくなるのだと言う。

しかし原因がはっきりしていれば対処もし易いはずである。逆に考え過ぎて余計に混乱して脱出の糸口が見えなくなるということもあるようだが、問題なのは、自分でも何故なのか分からないという場合である。上手くいていた時と何も変えてないのに上手くいかない。何かのバランスが微妙にずれているのか、単に力が落ちたのか、それとも今までの自分のやり方では通用しないのか。

プロであれば、何かが微妙にずれているだけなら基本動作をしっかりとこなし、体の動きのバランスと感覚を整えていけば元に戻せるだろう。

しかしこれまでのやり方では通用しないとしたら…そうか同じやり方では通用しないか、じゃあこれまでのやり方は捨ててこのやり方でいこう、と頭では理解したとしてもそう簡単にはいかないだろう。実績があればなおさらだ。

これまでその人を特徴付けてきた「らしさ」というのはプロフェッショナルの世界では重要だ。もちろんファンが熱狂するのもそうした「らしさ」に対する憧れからだ。ファンからすればやり方は変えても簡単に「らしさ」は捨てて欲しくない。しかし場合によってはその「らしさ」すら変える必要が出てくるだろう。

スランプから脱出するために昔を捨てるのは覚悟がいるし自分を変えることは難しい。どこの世界でも一緒だ。しかし復活のためには覚悟し、行動するしかない時もある。この号が出る頃彼らはスランプを脱し再び輝いているだろうか。いや輝いているはずだ。